

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-242	13-062	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Alcohol screening scores and 90-day outcomes in patients with acute lung injury. 急性肺損傷患者のアルコールスクリーニング点数と 90 日経過時のアウトカム		
執筆者		
Clark BJ, Williams A, Feemster LM, Bradley KA, Macht M, Moss M, Burnham EL; NHLBI ARDS Network Investigators.		
掲載誌		
Crit Care Med. 2013 Jun;41(6):1518-25. doi: 10.1097/CCM.0b013e318287f1bb.		
キーワード		PMID
急性肺損傷、アルコール誤用、不健全なアルコール摂取		23538449
要 旨		
<p>目的： 急性肺損傷患者のアウトカムに関する過度のアルコール消費（アルコール乱用）の影響に関する研究報告では一貫性がなく、低呼吸量呼吸と保守的な輸液戦略に着目してこの関連を調査した研究はない。本研究では、アルコール摂取障害識別(AUDI)試験の点数で過年の禁酒（第 1 区分）、低リスク飲酒（第 2 区分）、軽度から中度のアルコール乱用（第 3 区分）、重度のアルコール乱用（第 4 区分）分類し、急性肺損傷患者における悪いアウトカムに関連するかを検証した。</p> <p>方法： 急性肺損傷患者に対する多施設臨床試験を実施する 12 大学センター（44 病院）により構成する急性呼吸窮迫症候群ネットワーク(ARDSN)が被験者を募集し、近年実施された 3 つの急性呼吸窮迫症候群ネットワーク臨床試験のいずれかに登録し、急性肺損傷の診断基準を満たした患者を対象とした。</p> <p>結果： 3 つの急性呼吸窮迫症候群ネットワーク研究のいずれかに登録された 1,133 人の患者の内、1,037 人の患者の AUDI が分析可能であった。アルコール誤用は、第 3 区分の患者 70 人(7%)と第 4 区分 129 人（12%）に見られた。アルコール乱用の区分と、90 日経過時点での死亡ないしは持続入院との間に U 字形の関連があった（第 1 区分で 34%、第 2 区分で 26%、第 3 区分で 27%、第 4 区分で 36%；第 1 区分と第 2 区分の比較及び第 4 区分と第 2 区分の比較に対して $p<0.05$）。多重ロジスティック回帰モデルで、第 4 区分の患者における死亡ないしは持続入院は、第 2 区分の患者に比較して有意に高いオッズであった。（調整オッズ比 1.70; 95%信頼区間 1.00, 2.87; $p=0.048$）</p> <p>結論： 急性肺損傷患者における重度のアルコール誤用は、死亡ないしは 90 日の持続入院に対するリスクであった。</p>		